

大学院同窓会からのお知らせ

着々と進む大学院同窓会組織づくり

上越教育大学大学院同窓会 会長
嘉一 新部
(教育経営1期生)



会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。全国各地でリーダーとして、中堅教員として御活躍されておられますことに心より敬意を表します。

今冬の上越は、記録的な大雪に見舞われた大変な冬ですが、皆様はいかがでしたでしょうか。

さて、母校である上越教育大学が国立大学法人となったことはご案内のとおりです。「特色ある学校」は、全国の小・中・高校及び大学等の学校運営・経営上のキーワードとなっております。上越教

育大学においても例外ではありません。それ以上に、生き残りをはかった各種の取組が求められていると言っても過言ではありません。そんな中、大学院修了生が4,500余人となり、同窓会に求められるもの、その果たす役割も大きくなってきております。各都県において各種の取組が行われてきておりますが、具体的にはよく分かっていませんでした。

そこで、昨年夏に開催されました第1回関東甲信越靜岡大学院同窓会についてご紹介いたします。

1 日時 平成17年8月7日(日)
午後2時00分～午後6時30分

2 会場
ホテルフロラシオン青山

3 出席者
(1)大学当局
学長 渡邊 隆様
理事兼副学長 高田喜久司様
理事兼事務局長 梶原 憲次様
就職支援室長 守屋 仁様

(2)各都県
東京都3名
藤沢 千代勝
(5期生 教育基礎)

牧口 典子
(11期生 教育方法)

JUEN 03

Joetsu University
of Education,
Network

吉田 和夫
(11期生 国語)

千葉県3名

池田 稔
(3期生 教育基礎)

平松 澄明
(13期生 教育方法)

吉田 隆
(18期生 生徒指導総合)

埼玉県2名

内藤 定芳
(3期生 教育方法)

米澤 豊
(3期生 理科)

群馬県2名

大山 啓三
(1期生 教育経営)

鈴木 達也
(4期生 教育方法)

静岡県2名

工藤 榮一
(7期生 数学)

安藤 雅之
(11期生 教育方法)

山梨県1名

田村 悟
(12期生 教育経営)

沖縄県1名

蔵根 美智子
(11期生 国語)

新潟県2名

山川 晃
(5期生 理科)

中村 文也
(8期生 社会)

※長野、茨城、栃木、神奈川県代表は日程調整つかず欠席

(3)大学院同窓会

会長 新部 嘉一
(1期生 教育経営)

副会長 矢野 利雄
(1期生 技術)

副会長 笹川 辰雄
(1期生 美術)

副会長 寺田 喜男
(4期生 社会)

事務局長 中村 雅彦教授
(3期生 理科)

4 主な内容

(1)上越教育大学の現状と課題

平成17年度「特色ある大学教育支援プログラム(特色G.P.)」に全国47の取組の1校として採択された。テーマは、「教職キャリア教育による実践的指導力の育成」分離方式の初等教育実習を中核としてである。大学院生数も長く定数割れが続いたが、今春より定数を満たすようになってきている。

独立行政法人となり、今後は同窓会に大いに期待したい。「同窓会員は、大学のよき理解者であり応援団員である。そして、最も厳しい批判者であってほしい」

(2)情報交換

毎年、「都の集い」を実施している東京都。情報交換を主とした千葉県。4大学(上教大、鳴門教大、兵庫教大、埼玉大)の修了生で組織された「山屋敷の会」の埼玉県。修了生の結束が固い「静岡山屋敷の会」の静岡県。修論の発表会を兼ねた研修と情報交換の群馬県。同窓生も頑張っている沖縄県。県支部規約制定や役員選出を行った新潟県。設立に向けて動き出す山梨県等各都県での同窓会活動や修了生の活躍の様子が、和やかな雰囲気の中で話し合われた。

「同窓会連携事務室」が人文棟3階に新設されました。兼務ですがスタッフもおります。名簿作成や相談等何でもご連絡ください。

また、同窓会に伴う学長団の派遣、教育現場での要望等について大学へお寄せください。互いの連携を重んじる上越教育大学は、開かれた大学です。

大学院同窓会への問い合わせ先
大学院同窓会事務局長

中村 雅彦

(自然系教育講座(理科)教授)

E-mail: masahiko@juen.ac.jp



修了生からのお便り

—博物館と教育現場をリンクさせ、
信濃川流域から縄文学習の
ネットワークを広げる—

立ち上げたきっかけは？

私たちの郷土は、火焔型土器という日本有数の文化遺産が出土した地域です。そこで「縄文」という共通テーマのもと、博物館と連携しながら、縄文文化を保有する複数の地域が相互に交流することで、子どもたちの学びを深めることができると考え、取組を開始しました。

しかし、実際プロジェクトが動き出すまでには、組織作りから資金の獲得まで、様々な問題にぶつかりました。「夢物語」と指摘する人もいました。その中で、私を支えてくれたのが大学院の先生であり仲間であり、現在のパートナーである県立歴史博物館の山本哲也学芸員でした。その結果、長岡市、十日町市、旧中里村、津南町の4市町村の博物館と学校を連携した「火焔街道博学連携プロジェクト」の結成にこぎつけることができました。

プロジェクトでは、どのような活動をしているのですか？

「交流学習会」「縄文子どもフォーラム」「子ども縄文研究展」の主に3つの活動から地域間連携を進めています。フォーラムでは、連携各校の子どもたちと学芸員らが一堂に会し学習します。國學院大学の小林達雄先生や上越教育大学の藤岡達也先生にも参加していただき、子どもたちの指導にあたっていたいただいています。研究展は子どもたちの作品や研究成果を展示します。津南町、十日町市、県立歴史博物館を巡回し、各博物館の年間計画に組み込まれるまでになりました。新聞やテレビでも報じられ、注目を集めています。

3年間の実践で連携校は延べ16ヶ校にのぼり、759名の子どもたちを支援することができました。今後もこの活動を継続する中で、地域の歴史文化を子どもたちに伝え、博物館との連携など総合的な学習の可能性について追求していきたいと考えています。そして、全国的な縄文学習のネットワークを構築できればいいと夢見ています。

本学で学んでいる学生に ひとつのヒント

大学院に入学していなければこのプロジェクトを実現させることはできなかったでしょう。あつとき描いた夢を実現させ、新たな夢を与えてくれた上越教育大学に心から感謝しています。「夢物語」とあきらめないで研究すればきっと夢はかなうでしょう。上越教育大学はそれができる学舎なのですから。同窓生として皆さんの活躍を楽しみにしています。



プロフィール

金子和宏 (かねこ・かずひろ)

新潟県十日町市立下条小学校教諭。

平成15年度本学大学院学習臨床コース修了。

現在、県内5小学校、県立歴史博物館や市町村の博物館と連携して「火焔街道博学連携プロジェクト」を企画運営する。本人曰く「縄文はわたしのライフワーク。」

HP: 楽しく学ぶ縄文倶楽部

<http://www10.plala.or.jp/zyoum>

